



高崎市スポーツ協会会長

矢沢 敏彦さん(77)

高崎市中居町

今年の東京五輪で正式種目となった空手について、歴史的・文化的な背景を明らかにし、それを踏まえながら現代における武道のあり方をまとめていく。空手の奥行きの高さや日本武道の神髄が分かる一冊だ。

著者は日本空手協会の会長を務める。本書で沖縄発祥の空手がどのようにして日本の武道へと発展してきたのか、空手のスポーツ化の過程などを説明。武道は武術や武士道の伝統に由来しており、両者の歴史や極意にも触れている。

最後には、空手の競技スポ



和を尊ぶ誇るべき伝統

「あらゆる観点から空手の歴史を捉えた1冊」と話す矢沢さん

1ツ化が進む中で、武道の理想と現実の調和をどう図るかが課題とし、日本の武道文化としての空手道のあり方について著者の考え方を述べている。

矢沢さんは大学時代に空手を始め、世界大会にも出場した経験を持つ。現在は高崎市空手道連盟の会長を務め、後進の指導と競技の普及活動に尽力している。

本書で印象に残っている箇所は、「武士道の理想は平和だ」という言葉だ。『武道の基になっている武士道の究極の理想は平和であり、和を大事にする思想こそ日本の誇るべき伝統であると改めて感じた』と語る。

現在、空手の競技人口は増え、フランスやロシアをはじめ多くの国で親しまれる世界的な競技となった。矢沢さんは「武道を通じた異文化交流の担い手になるためにも、空手発祥の国として『武道とは何か』ということをきちんと説明できる必要がある」と強調。「空手に関心のある人ももちろん、武道全体に興味がある人にも読んで知識を養ってほしい」と呼び掛けている。

(吉野友淳)